

授業科目名	NPO・NGO と国際社会	担当教員	鈴木 郁乃
必修の区分	選択		
単位数	2 単位		
授業の方法	講義		
開講年次	2 年 第 2 クォーター		
講義内容	<p>この講義では、国内外で発生する様々な社会課題において、公共（行政）とビジネス（企業）の間でその解決を担う NPO・NGO の役割について学びます。前半では、NPO・NGO の定義や歴史、資金調達等の組織運営に関する基礎知識を習得します。その上で、災害支援や貧困削減、難民支援や多文化共生といった諸課題に対し、これらの組織がどのような実践を行っているかを事例から学びます。</p> <p>後半では、多様化する課題に対して、芸術文化や観光がどのように社会に寄与できるかを考察します。また、習得した知識に基づき、実際の NPO・NGO について調査・分析を行うグループ発表を実施します。最終レポートでは、受講生一人ひとりが自ら問題意識を持つ課題を選び、その解決に向けた団体の設立や活動内容を構想します。</p>		
到達目標	<p>受講生が、次の三点を達成することを目標とする。</p> <p>①NPO・NGO の基礎的な知識を身につけること。</p> <p>②国内外の社会が抱える諸問題への理解を深め、それらの課題への NPO、NGO の役割を理解すること。</p> <p>③NPO・NGO の基礎知識をもとに、国内外の社会課題の対応策を考え、論理的に議論できるようになること。</p>		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 ガイダンス：公と私の間にあるもの（NGO・NPO の定義） 2 NPO・NGO の歴史と国際社会の変遷 3 NPO・NGO をとりまく制度と組織運営の仕組み 4 NPO・NGO の資金調達戦略 5 国際協力の現場①（海外支援の事例から） 6 中間総括（社会課題を自分事として考える） 7 芸術文化と NPO・NGO 8 観光とソーシャルビジネス 9 国際協力の現場②（国内での活動の事例から） 10 グループ発表① 11 グループ発表② 12 まとめ（グループ発表と中間レポートへの講評） 		
事前・事後学習	<ul style="list-style-type: none"> ・事前に、各受講生が関心をもつ NPO・NGO について調べておくこと。 ・各受講生は、国際紛争や災害等のニュースに日々関心を向けておくこと。 ・事後学習については「成績評価の基準」欄を参照すること。 		
テキスト	特に指定しない。		

参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・宮垣 元 (2024) 『NPO とは何か-災害ボランティア、地域の居場所から気候変動対策まで』 中公新書 ・内海成治・桑名恵・杉田映理編 (2024) 『国際協力を学ぶ人のために』 世界思想社 <p>※ 必要に応じ、講義で資料を配布し参考文献を紹介する。</p>
成績評価の基準	<p>次の四点の課題を通じて、到達目標の達成度・理解度を総合的に判定する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 受講態度および授業中の議論への貢献 (30%) 2 中間レポート (20%) 講座の前半での学びをレポートにまとめ提出する。 3 グループ発表 (30%) 日本国内の NPO・NGO について調査し、その活動内容や課題等についてグループ発表を行う。 4 最終レポート (20%) 社会課題の解決に向けた NGO・NPO の設立、事業計画を考える。
履修上の注意 履修要件	<p>本講義の履修の是非を決める参考として、また「成績に対する確認書」を呈する前に、以下の項目を確認すること。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・成績評価は基準 1・2・3・4 の総点評価で行う。 ・「成績評価の基準 2 および 4」の評価では、講義内容の理解を確認する。よって、講義の内容を踏まえていないレポートは低評価となる。
実践的教育	該当しない。
備考欄	<ul style="list-style-type: none"> ・履修学生数の多寡などにより、講義の計画や内容が修正される可能性がある。 ・履修希望者が定員を超過した場合は、抽選により選考する。